

コード	102040101
記入日	H24.6.8

課コード	124
課名	学校教育課
課長名	濱崎 健也
担当者	森 太

事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 24 年度
------	----------

評価対象事業名称	外国語指導助手招致事業
----------	-------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	1	政策名称	にぎわいを創る地域交流の促進	款コード	10
施策コード	102	施策名称	しまの交流ネットワークづくり	項コード	1
基本事業コード	10204	基本事業名称	国際感覚豊かな人材の育成	目コード	2
事務事業コード	1020401	事務事業名称	外国語指導助手招致事業費	細目コード	956
関連計画	法令・条例規則等				

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標						
(対象1) 町内小中学校児童生徒数		(対象指標1) 1,746人						
(対象2)		(対象指標2)						
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）						
(全体)		(評価年度実績)		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****		・23年度もALT 4名体制により各小・中学校へ派遣し、外国語(英語)教育の充実と国際理解の認識を高めた。		*****	*****	*****	ALT契約者数÷ 予定者数	*****
				ALT契約者数	4人	100%		平成23年度
				① (達成率分析)	アメリカ、カナダ、イギリスからALTを招致しており、国際理解と英語力向上に大きく寄与している。			
				② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）						
				(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
				*****	*****	*****	実績授業日数÷ 計画授業日数	*****
				授業日数	720日	90%		平成23年度
				① (達成率分析)	ALTを小学校へも派遣し、国際理解や生の英語教育を早い段階から行い、英語に親しむことにより英語力向上に寄与している。達成率が90%となっているのは、ALTの有給休暇取得のためである。			
				② (達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		22年度以前	23年度		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 人	4	4	4	4	4					
	②										
成果指標	① 日	5120	5040	4320	800	715					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	137,770	137,462	117,367	20,403	20,095					
直接事業費 A	千円	132,870	132,562	113,167	19,703	19,395					
人件費 B	千円	4,900	4,900	4,200	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.7	0.7	0.6	0.1					
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	137,770	137,462	117,367	20,403	20,095					

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1次評価	妥当性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ● ない	理由	国際化社会への人材育成には欠かせない事業である。生の英語に接することにより、外国語(英語)に対する不安の解消が図られ、学習意欲の向上にもつながり、国際理解を深めるためにも大変重要である。
	有効性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	児童生徒の外国語(英語)に対する興味も深まり、英語に対する苦手意識もなくなり、英会話力も向上している。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	小学校5・6年では外国語(英語)が週1時間必修科目となっていることや、今後幼児期の英語教育が益々重要視されることが考えられるため、幼・小への派遣回数増加も検討されている。
	効率性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる ● いない	理由	児童生徒の国際理解を図る以外に、ALTは地域での活動にも積極的に関わっており、一般住民への効果も相当高いものがあり、費用以外での効果も期待されている。
		・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。	代えられる ● 代えられない	理由	派遣が月1回の小学校もあり、人数を減らせば派遣できない学校もでてくる。現在の費用、業務量でも足りないぐらいである。

改善 (ACTION)

1次評価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	来日1年目の報酬を月30万円から28万円に減額することを検討。
	今後、課題に向けた改善策	引き続きALTに伴う費用の見直しを行う。

2次評価	児童生徒の英語力の向上、国際理解に結びつくものであるが、幼児期の英語教育が今後ますます重要視されており、幼稚園・保育所までの派遣は可能な限り、ALTの有効活用として検討すること。
------	---

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	このまま事業を継続	1次	2次	3次	類似事業と整理統合
	●	●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。